

SDGs新聞

<https://www.amda-minds.org/>

岡山から世界を変える!

世界をよりよく変える「SDGs」について考えてみよう!!



世界の栄養・食糧確保の状況



世界の人口は77億人 (UNFPA 2019年)。現在、そのうち約7億人が飢餓に苦しんでいます。更に新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウンや移動制限で、人々の生計は悪化し、貧しい国々で生きる人々は栄養のある食事を十分とることが困難になっています。今後、新たに最大1.3億人もの人々が飢餓状態に追い込まれる可能性があります。

2030年には世界の人口は85億人まで増えると予測されており、さらに食糧の確保が難しくなると予想されています。



ホンジュラスの栄養・食糧確保の状況



中米の国ホンジュラスは、人口926万人うち、61.9%が貧困層です (国立統計研究所2018年)。貧困は栄養状態にも深刻な影響を及ぼしていて、人口の15.3%は低栄養の状態です。さらに、5歳未満児の5人に1人は栄養不良です (FAO 2018年)。特にニカラグアの国境付近にあるエルパライン県バド・アンチョ市は、気温が高く干ばつが頻繁に発生するため、農業収入も不安定です。農業以外の収入は限られており、一人当たりの年間収入は約8万円程度です。そのため、わずかに収穫できるトムロコシと豆を中心とした食生活になり、十分かつバランスの取れた栄養を摂取することができません。



アムダマインズの取り組み



バド・アンチョ市では、持続可能な形で十分な栄養が取れるよう、家庭菜園の普及に取り組んでいます。雨の少ない乾燥地の小さな農家でも野菜が収穫できるよう技術を伝え、栄養不足の解消を目指しています。収穫物を増やしている住民の姿は近所の家庭の参加を促し、農作物に加えクッキーなどの加工品作りにも取り組みました。青空市を開催し、地域住民が多様な食材を安く手に入れる機会も提供しています。さらに、家庭菜園を通じて環境保護の重要性に気づいた世帯は、化学肥料や農薬を極力使わないようになりました。



日本も昔は栄養不足だった
いま、みんなは給食を食べられていますよね・・・でも昔はそうでもなかったんです。戦後、食料品や医薬品そして日用品など、いろいろものが不足していた時代に、お腹をすかせ、病に苦しむ日本の子どもたちをはじめ、多くの人々が海外からの救援物資で救われました。しかし今、日本では年間612万トンの食べ物が捨てられていて大きな問題になっています。

自分たちでできること

日本の食料は、約38%が国内で生産されたもの、約62%は海外からの輸入によるものです (※2017年度カロリーベース)。一人ひとりの食品ロスを減らすための小さな行動が、大きな削減につながります。食べものをつくる生産者への感謝の気持ちや、食べものを無駄にしないという気持ちはあっても、行動に移せていない人がいるかもしれません。

そこで、身近なところから食品ロスを減らすためのヒントをご紹介します。

基本は、「買いすぎない」、「作りすぎない」、「注文しすぎない」、「そして「食べきること」が重要です。



PIXIEのみんなのSDGs

SDGsについて楽しく学べる動画をご紹介します! SDGsの達成を目指す17人の戦隊ヒーローが登場!! 「すすめ! マインズジャー」を見て、SDGs達成について自分でできることを考えてみよう! アニメではSDGsにつながる様々な活動を紹介するよ。「そげーに堅苦しゅー思わずに、ちょっと見てみられえ」。



AMDA-MINDSのことがよくわかる!? 広報アニメ

持続的開発支援し隊

マイクスゴキ

SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、2030年までに達成すべき国際社会共通の目標として設定されたSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)のことです。貧困、飢餓、教育など多岐にわたる17の目標と、それを細分化した169のターゲットから成ります。「No one will be left behind(誰一人取り残さない)」を理念とし、私たちアムダマインズを含め、すべての国・地域の人々みんなが協力して達成に向けた取り組みを進めています。

